

木『梅』、町鳥『白鳥』
きた歴史の恵み、町のシンボル~
大河原町長 齋 清志
and the second se

存分に活かしてまいる所存です。	ひこぬ里の 梅の花 摘みてぞ知れ	く姿が思い浮かんで少し感傷的に
の見極めに努めながら町の特色を	地に赴任した藤原実方が、 『鶯の 訪	り行く時代を考えると、桜の散り行
ことになりますが、『易』、『不易』	平安時代の歌人で陸奥守として当	がら、『平成』から『令和』へと移
共に社会環境も変化の一途を辿る	せんが、本町の町木は『梅』です。	見せてくれる彩の変化を見つめな
たことに感謝しています。時代と	奇をてらうつもりは全くありま	しませてくれています。桜の日々
を機に改めて認識することができ	ことでした。	な天候にも負けず見事な風情を楽
して生まれた町のシンボルを、改元	ら二文字を取って命名されたとの	選』に選ばれた一目千本桜は、どん
本町が歩んできた歴史の恵みと	抜き、 蘭は 珮後の 香を 薫らす。 』か	日本さくらの会より『さくら名所百
な	て気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を	ました。しかし県内で唯一、(公財)
に活かせる状況にないのが残念で	首の序文にある、『初春の令月にし	
鳥インフルエンザ等の問題で観光	最古の歌集『万葉集』の梅花の歌32	舞われて、開花から満開への行方に
を私たちに運んでくれています。	元を迎えることになります。日本	りか、厳しい寒の戻りや降雪にも見
い、白鳥飛来の地と同時にやすらぎ	終わると、いよいよ『令和』への改	す。今年は寒暖の差が激しいばか
中心とする町のイメージによく合	そして今年は、この桜の季節が	なり、大勢の観光客で賑わっていま
神』が奉られており、清流白石川を	次第です。	白石川堤の一目千本桜も満開と